

Q これまでどんな市民議論をしてきたの？

A



昨年は、市民の皆さんといろいろな形で意見交換し、路面電車を一部地域の交通機関ではなく「市民全体の財産として存続させる」という思いを改めて確認しました。

本誌の路面電車特集に寄せられた意見や、市民1万人アンケートの結果では、存続について過半数の方の賛同が得られたほか、路面電車の現状や課題を市民とともに考える「市電フォーラム」でも、存続すべきとの声が多数を占めました。

広報さっぽろ特集

昨年7月号で路面電車の現状と課題を紹介し、9月号では寄せられた市民の皆さんのご意見を紹介しました。



←平成16年7月号



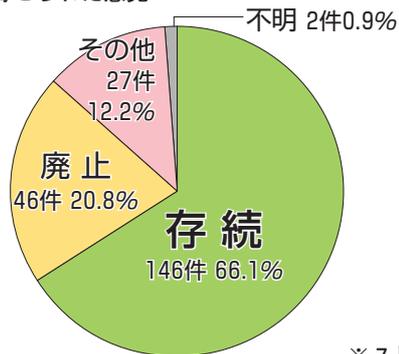
↑平成16年9月号

※7月号、9月号に寄せられた意見の合計

主な意見

- シンボルなので存続 …36件
- 環境に優しいので存続 …35件
- 延伸が必要…32件
- 経営が赤字なので廃止 …25件

● 広報さっぽろに寄せられた意見

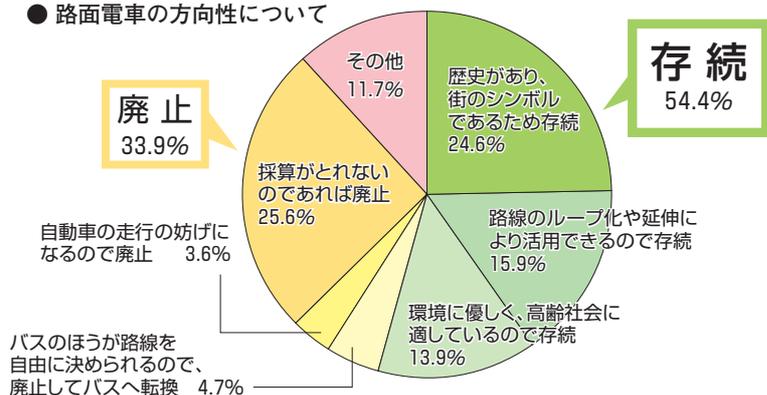


市民アンケート

(平成15年1月実施。20歳以上の市民1万人に郵送。4,923通回答)

老朽化した車両や工場の改修に、当時の推計で約100億円の費用が掛かる見込みであると説明した上で、路面電車の方向性を尋ねました。

● 路面電車の方向性について



出前講座

希望する市民グループのもとに市職員が出向き、路面電車の現状や問題点、検討状況を詳しく説明しました。参加者からはさまざまな意見が寄せられました。



「市電の現状と将来」をテーマに昨年10月25日に路面電車の車内で行われた出前講座